北海道社会福祉協議会福祉教育専門委員会委員が、第36期協力校を視察にうかがいましたので、視察内容を報告いたします。

キャリア教育としての福祉教育
～「子育て支援施設の職場体験学習」の実践から～

報告者：北海道社会福祉協議会　福祉教育専門委員会　副委員長　設楽正敏

協力校視察先：室蘭市立桜蘭中学校

○学校環境

室蘭市立桜蘭中学校は、平成24年４月１日に蘭東中学校と向陽中学校の統合校として開校し、今年で創立４年を経過した。

教育目標は、「自分を磨き　自分を生かす」として「自らの課題に粘り強く取り組み、学ぶ意欲と責任を持って行動する【自立】」、「人とつながる力を持ち、社会、自然と強調して生きる【共生】」「自分のできる事を諸活動の中で生かし、民主的な社会を担う【貢献】」の３つの柱から構成されている。

○活動の特色、着目した点

桜蘭中学校のキャリア教育は、本年度の全体目標を①教員自身がキャリア教育への理解を深め、本校の教育にキャリア教育を根付かせていく。②キャリア教育で育成すべき能力（基礎的・汎用的能力）等を意識した実践を学校の教育活動全体を通じて推進していく。③キャリア教育の教育課程への位置づけを明確にする。④各学年でキャリア教育を意識した実践、の４点に定め推進しているところである。

２学年においては、「自己啓発　『社会を知る』」とし、重点目標を「自己理解を深めると共に、目標を立てそれに向かって努力する姿勢を高める。職場体験学習を通して、望ましい職業観や勤労観をはぐくむと共に、進路選択に対する意欲と関心を高める。（後略）」とし、主な学習内容を「（前略）『自主研修』『職場体験学習の実施』」としている。

今回の職場体験学習については、特別活動との関連を図りながら総合的な学習の時間で実施した。学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に、主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。職業や自己の将来に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、自己を理解し、将来の生き方を考えるなどの学習が行われるようにする。

○視察の内容

・視察時の活動内容：子育て支援施設での職業体験
・視　　察　　日：平成27年10月28日（水）
・視　察　場　所：ＮＰＯ法人ワニワニクラブが運営する子育て支援施設

○生徒のようす（生徒の声）

実際に体験学習に来ていた生徒３名に話を聞いた。

「体験学習はためになる。将来、子どもとふれあう職業に就きたいと思っているので、 今日は楽しい。」

「最初は、子どもが来てくれなくてとまどった。時間が経つと子どもが慣れてきて、近づいて来てくれた。とても勉強になっている。」

「思っていたより子どもと遊ぶのは難しい。子どもとの接し方を考えながら過ごしている。将来は保育士になりたい。」

●子育て支援施設の利用者（保護者の声）

活動場所では、あちらこちらに２～３人くらいの保護者の輪ができていて、中学生が幼児と関わっているのを見つめながら、楽しそうに話しをしていた。

中学生のボランティアについて、どう思うかと聞くと

「体験学習にやって来た中学生が、物怖じせず幼児と遊んでいるのを見て感心した。」

「中学生が我が子とふれあっているのを見て、自分にも刺激になった。遊んでくれて、うれしい気持ちだ。」

「中学生にとって、将来の職業選択につながる機会だと思った。特に保育士とか幼稚園教諭を目指すには良い体験だ。」

など、中学生の職業体験に好意的な声を聞いた。

次に、子育て支援施設の運営主体であるＮＰＯ法人のどんなところが好きかと聞くと、

「ボランティアの方や他のお母さんたちがみんなとても優しい」

「運営がとてもしっかりとしているので安心して来られる」などの声を聞いた。

●教員の声

行事や授業が錯綜する中で、諸準備に大変な労力が必要とされることなどから、中学２年生に社会体験学習をさせることに抵抗感がある。

関連する学習として、３年家庭科の学習で「保育実習」がある。

●意見交換の内容

社会体験学習の実施上の課題として、学年の生徒が200人在籍していることがネックである。人数が多いと言うことは、一斉に動くことが難しいからである。

日常的な取組みとして、地域の清掃活動などのボランティア活動を実施。放課後の時間に、活動できる生徒を募集している。

活動を校内だけではなく、地域の小学校や近隣の高等学校との連携を検討している。また、室蘭市社会福祉協議会を通して、連合町内会や民生委員、高齢者などへ中学生としてのかかわりを考えていきたい。具体的には、高齢者宅のゴミ出しや雪かきのボランティアなどである。

室蘭市社会福祉協議会への要望として、活動の場になる受け入れ先について、コーディネートしていただけるとありがたい。今後の活動も連携をとりながら進めていきたい。

●福祉教育専門委員としての感想

【桜蘭中学校の実践について】

今回視察した、桜蘭中学校の社会体験学習の「子育て支援施設」での「福祉体験」は、それが生徒の学習経験であるという教育的意義はもちろん、多くのほかの人々の暮らしや生き方に直接的にかかわるという意味で社会的意義をもった体験学習である。

桜蘭中学校の社会体験学習の特徴として、以下の４点が挙げられる。第一に、生徒自身の自発性を伸長していること。第二には、生徒が社会的存在としての自覚を持ち、社会の有意な形成者となるとしていること。第三には、社会体験学習のフィールドは、学校と地域社会を結ぶ契機となっていること。第四は、社会体験学習は生徒自身が体験することから始まるもので、教育活動を編成実施する教職員が社会的認知を深め、学校のあり方を広い視点から考えることができること。

職業体験学習で子育て支援施設を訪れて行った活動は、学校の特別活動や生徒指導を通して、中学生が身につけた力を発揮する本番、また、学校教育だけでは十分に身につけることができなかった力を補完するための場所として機能していた。

【福祉教育における体験の意義】

中学生が子育て支援施設で活動に参加することは、学校教育の教科外活動である特別活動及び学校生活全体を通して行われる生徒指導の機能を補完する役割をもつものとして、非常に有意義なことである。そこには、学校外でも実践可能なボランティア活動を通して身につけることが期待されている力が関係している。

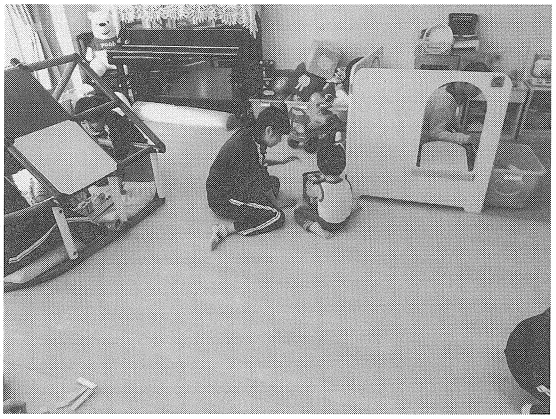
中学生は、ボランティア活動を通して、自分が地域社会の一員であることを実感し、地域社会に貢献することの

大切さを学ぶ。学校とは異なる場所の異年齢、同年齢の人間関係を通して、他者への共感と自分が役に立っているという実感を得る。また、物事への関心を深める、問題や課題を発見する、問題や課題を仲間と協力して解決するといった、子どもの将来の自己実現につながる力を高める効果が期待できる。そして、活動全体を通して充実感を体得し、コミュニケーション能力を育むと共に、この自己実現を達成するための力は、中学生の学びへの意欲を高め、ひいては学校教育の「生きる力」へとつながっていくのである。このような体験の積み重ねを通して、中学生は市民性や社会性を獲得し、学校から社会へと歩んでいくための基礎を築いていくことができると考えられる。

最後に、今後も道内各地の各学校で福祉教育が、それぞれの実態を踏まえながら、実践が積み重ねられていくことを切に期待するところである。

視察協力先【ＮＰＯ法人ワニワニクラブ】

昭和60年から室蘭市輪西町において、代表の吉田淑恵氏が、自宅で託児所を運営しながら近所の親子を集め、育児サークルのような活動を始めた。

平成13年11月に現在地に子育て室が完成し、地名にちなみワニワニクラブとして新たなスタートを切った。

平成22年頃、ボランティアのためのサロンも始めたところ、好評で平成24年６月、組織を地域全体に移し、民生委員や連合町会のメンバーによる新たなコミュニティの場「サロン・ぷらっと」として会場使用が始まった。地域の育児課題に対応し、中学生、大学生が乳幼児との関わりを持てる多世代交流の場となっている。